

山友会誌



NO.1

青山学院大学馬術部

発刊に当つて

思えば過去何年間か共に過してきた当馬術部というものは、個々の時代に於て各々特色のある発展を遂げてまいりましたが前時代、いや現今にも残る男子系大学の体育会のあの凄まじい程、保守的と見られる練習、部生活に於ける態度、行績などというものはや当部には残り少なく、それに代つて皆の意志を極端に取り入れ、皆の意志で築き上げる或る程度民主的な上品な部というものが認められる様になつてきましたがこの面で平中主将以下、幹部役員の示される「部の中に強い筋金を通す。」という意志に多少なりとも役立てばと思ひ、今般、馬術部機関誌「いななき」出版を計画し、同意を得ましたのでこゝに第一号を発刊するものであります。意見交換の場として、部生活向上、馬術事情感知の増進、OBと現役のより深いつながり、及び良き社会人としてのより広い視野の追求等の目的が遂行出来れば幸いと存じますが発刊に当つて芹野（前主務）氏の御助言などありまして、ささやかながら部員有志の理解ある投稿を取り集めましたが何分にも当部の経済状態が未だ負債に追はれております故、以下の号に或いは支障をきたすこともあるかと思はれますが、それはそれとして序々に解決してゆきたいと考へております。

ともあれ、細内、高倉以下の編集部員と力を合せて、作成出来得たことに喜びを感じております。

不定期ではありますが第二号以下を発刊するつもりでございますから諸先輩並びに現役連の投稿を切にお願い申し上げます。

一九五九年十二月

緑鞆会係

岡 良介
菊 地 俊 子

新役員の所感

主将となつて

主将 平 中 三 彦

向う一年間、拙者が主将を務めることになりました。心に準備のなかつた役目だけに自分自身の態度を決めるのに大童わの状態です。選ばれて一旦役目についたからには途中で放擲するが如き卑怯な男らしくない振舞いは絶対に行わないことを誓います。現在、我が馬術部に最も欠けていると思われるものは運動選手らしい「線の太さ」と「規律正しさ」とであると思う。拙者の任期中に、これだけは是非とも養うように努力したい。そして部生活を通して母校に対する愛情を全部員にうえつけることが出来れば最高である。しかし何分にも難かしいことがあり、まりにも多い馬術部のこと。諸先輩の御指導と部員一人一人の自覚がなければ何事も成就致しません。拙者一生懸命やるつもりですから何卒、御助力をお願い申し上げます。

副主将 岩 崎 修

新役員も就任以来すでに一ヶ月を経過し各々の仕事に努力しておりますが、未だ不なれなせいか色々と不手際がある事と思ひます。今後先輩各位の御指導により充実した部活動を行つて行くために私はこの際自己の抱負と先輩の皆様にお願ひしたい事がございます。運動部である馬術部にとつて何が大切かと云えば、それは我々部員の実力向上にあると思ひます。我々は部員として各々の役を全うする以上に、自己の馬術的技術を向上させねばならず又それがより積極的な部活動といえると信じます。そのためには一にも二にも練習であります。そして一人一人が築いた実力を結集し、一丸となつて他校へぶつつけ様ではありませんか。当面の問題として、いつまでも二部にていめいする事なく一部校に全員の実力を持つて割込んで行こうではありませんか。主将に続くものとして自分は過去の経験を生かし、卒先して部に尽したいと思つておりますがみなさまの御助力、御忠告を願ひ

新役員 の 所 感

上げます。

馬匹に関する事ですが、我々各種の試合、大会でいつもながら痛感するのはこの事です。

「中障碍くらいは向ければとにかく飛んでくれる馬が欲しい。」これは今の部員の偽りのない言葉だと思えます。我々部員も良い馬匹獲得には全力をあげております。とにかく一歩一歩実力をつけて青山学院の馬術部をもり上げて行きたいものです。

主務 五十嵐 俊 樹

小生は此度当馬術部昭和三十五年度のマネージャーを務めることになりました。小生は選手を兼ねて行くつもりですので、先のマネージャー一芹野氏の御指導を仰ぐと共に、色々な面で、小生自身の個性的な所が出てくるものと思いません。幸いサブマネージャーとして熱心な金子君の協力を得まして微力ながらも馬術部発展の一助ともなれば幸いと思ひ、全力をつくすつもりで居りますので、皆様の御指導、御協力を切に御願ひ申し上げます。

女子責任者 井 田 恵 子

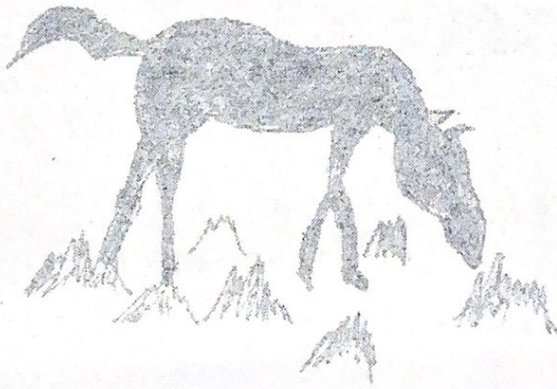
女子が馬にのるといふことは何とも難かしい問題だと思ふ。肉体的にも精神的にもあらゆる面で不利なのが女子だ、などと思ふこともある。だから母に反対されると弱いのであるが、どうしてやめる気になれないかと云うと、いくらやつても永久に魅力を失うことがないのが馬であるからだと思ふからだし、どんな危険を見ても自分が経験する迄はやめられないのかもしれない。こんなことを云いながら「私、自分の子供には絶対馬になんかのせないわ。」などと人が云うのを聞くと、私も「自分の子供には絶対のせないな。」と内心想ふ。一寸妙な話かな？とにかく馬術が荒つぽいスポーツだとは勿論思わないが、ともすると荒つぽくなりやすい。女らしさを保ちながら、女らしさを増しながら、馬に熟練出来れば素晴らしいと思ふ。私の場合は逆コースの様だけど。

新役員の所感

馬匹係 原 功

幸い昨年と同じ役につき、今まで出来なかつた事、又しなければならぬ事等、馬匹の役目をはつきりと確立させ次の代の人に渡すことが出来るなら、これが新しく出来た役に対する忠実なそして、最善の務めではないかと考えております。現在の馬匹は青波と青影は度々跋行はいたしますが青葉と共に好調ですし、今年の五月に購入しました新馬（産地栃木県雌、栗毛、中半血種）も青麗と名付けまして、阿部先生の調教よろしく日増しに整調されていきます。しかしながら現在の馬匹状況では大人数の練習には、過度の使用もやむ得なきに到り、又練習量も非常に制限されますので、出来ることなら、もう一頭新馬を購入したいと、それも大会に出場出来るような馬をと、私の一つの大きな念願であると同時に是非実現させたいと考えており

ます。現在の馬術状況が馬匹の改善というところまで進んでいき、各校とも懸命になつていようような有様です。幸い部員一同の協力により府中競馬場より乾草も取つて来ておりますし、秋月からのそば湯の制度及び宿直の制度等も復活して、やせ勝な学院の馬の健康と発育状態に最善をつくしていく決心しておりますから、お気付の点があればどしどしおつしやつて下さいます様お願い致します。





本年度の後半期の成績

福島遠征随行記

高尾友子

大きな大きな東横の包……それが男子からの差入れでした。車両の一部をはでやかに占領した私達、遠征軍が期待に胸をおどらせながら開けた例のプレゼント、出るわ出るわ、氷砂糖、ウエハース、おせんべい、あられ、飴玉、ありがとうございま・し・た。大勢の方達に見送られ、何か緊張した悲愴な気持で（ただ随つていくだけなのに）出発した私達は、各々陽気な笑い声と共に、七時間程の汽車旅行を終えて、無事に福島駅に着きました。福大の方に迎えられ、市電に乗つたのはいゝけれど、いや、その混んでいることといつたら、一度上げた足

のおろし場所がないといわれる中央線のラッシュ時よりさらにすこく、降りた時には、フ抜けの様になつてしまつたのは、無理もない事。それかあらぬか、ドン！とばかり溝に落つこちた人もあつて……夜道は大そう危いものです。お宿はアブクマ荘、案に相違して（？）とても清潔な感じのよい所で、食事もおいしく、真に居心地のよい宿舎でした。

その夜、随行して来て下さつた遠藤さん、岩崎さん、五十嵐さんから、明日の試合に備えての、心構えや諸注意、その他謀略等をさすけられ、私達ペー、ペー共にも何とはなしに、上級生達の試合に対する情熱、真剣さ、マナーに対する潔癖さが感じられ、頼もしくうれしい気分です。次朝、食事を済ませて会場である福島競馬場へ一番乗り。お

天気は薄ぐもり、暑くもなく、寒くも……ありました。雄大な山なみに囲まれた、のどかな盆地。すつきりと気持の良い、思わず深呼吸でもしたくなる様な場所です。掛け声も勇ましく、準備運動を終えた頃、学習院大、北大、東北大、福大、東大の面々が、それぞれのカラーを出して姿を現わしました。

開会式、大変に軍隊的な監督さんによる準備運動……いよいよ試合開始です。先ずレギュラー戦、高橋、石割チーム、井田、木田チーム、共に、善戦むなしく優勝を学習院にさらわれてしまつて、残念。午後からは新人戦が行われトツプを切つた島原さん、さつそうとアイヴアンホーに騎乗……五十嵐さんは、久し振りに御対面の府中のローロン、調教しながらの見事な騎乗ぶり、藤田さんは、いつもながら確実に、菊池さんは福スイというですぎる馬をよくおさえながらゴール。結局優勝争いは井田、木田両嬢で行われ、木田さんが優勝なさつた。

高橋主勝以下、柔らかに優雅に乗りこなしていたのは、見ても誇らしく、〃どうです〃等とつい見得を切つてもみたくなる様。お昼過ぎ

から急に寒くなり、どうにも我慢出来なくなつたので遠藤さん対オナゴ五人で〃おしくらごんべ〃を始めたのはいいけれど、おせどもおせども動かないのは……たつた二人の……。驚きま

た。閉会式の頃から降り出した雨は止む気配もなく、私達は、式次第の終りの方のレセプションの席上で行うことになりました。一本の傘に何と八人のスマートなレデイ達が身体の一部をそれぞれ突つ込んで、気持だけでも濡れないで会場に向い、福島競馬場長、元オリンピック選手、喜多井氏その他の激励のことばを受けて、井田さんが、優勝者の弁を木田さんがお話になり、なごやかに有意義なそして又傑作な話題の交換の後、再会を約して、会場を後にしました。初めて、遠征などという、聞いただけで武者ぶるいをしたくなる様なものに参加した。新米にとつては、何もかもが興味深く、〃虎の威を借りるきつね〃の様に、先輩のさつそうとした姿を誇らしく思いながら、後をついて廻り、今に私達も、と鼻をすよりながら誓つたものでした。

第二回全日本学生自馬競技大会

一月三日(火) 四日(水)

於馬事公苑

岩崎 修(青葉)
 平中 三彦(青波) 全員入賞ならず
 五十嵐 俊樹(青影)

昨年に続いて行われた本大会は全国から覇
 せ参じた百数十選手によつて個人及び団体
 の日本学生馬術界の人馬ともども、実力日
 本一を決定する大会だけに初参加の本学も
 望みをもつて競つたが健闘むなく上位に
 入賞は出来なかつた。なお個人優勝は二連
 覇の慶大広瀬光雄選手、二位は学習大安田
 信選手、三位は明大矢野隆男選手。団体で
 は京大、学習大、慶大の順に入賞した。

第七回

日本獣医畜産大学
招待馬術争覇戦 一月七日(土)

参加大学(日本獣医畜産大学・東京農業

大学・早稲田大学・麻布獣医

大学・東京大学・本学・中央

大学・日本医科大学)

前夜来降り続いた雨もようやく上つた当日、
 武蔵境の駅に七・三〇AMに集合。この試合は
 昨年より引続いて二度目の招待試合であり、昨
 年は決勝まで進み東大に惜敗したので部員一同、
 それに渡辺先輩をも加え今年こそとの意気にも
 えて勇んで敵地に乗り込んだが、惜しくも二回
 戦で敗退し結局、早大が初優勝した。馬場は雨
 で最悪のコンディション、まるで田んぼで試合
 するのとあまり変らないほど……それに本学
 対農大は第一試合という少くともコンディショ
 ンだけはまつたくついていない試合だつた。
 試合開始九・〇〇

先ず本学前段の一番白崎君は中央の名馬白秋
 号に騎乗、泥に足をとられながらも減点3でゴ

本学試合 (日付11月7日 第一回戦)

本 学		東京農業大学		
選手名	減 点	馬名	減 点	選手名
白 崎	3	白秋	0	
岩 崎	27	飛仙	21	上 杉
張 間	70.5	飛翠	191.5	斉 藤
遠 藤	3	東翠	8	工 藤

本学-100.5 農大-220.5

その差 120点で本学の勝

ール。やゝ顔面蒼白、多少あがりぎみだつた様だ。続いて農大二番斉藤が日獣の飛翠号にむちうつて登場したが第三障碍飛越直後、反抗して場外失権、減点一九一・五。相手にとつては惜しい失権であつたろう。次に本学岩崎君、やは

り日獣の新馬飛仙号に騎乗し減点二七この馬は馬格が大きく馬事公苑のビツクボーイに似た感じで乗りにくそうであつたが好騎上。続いて農大の工藤君は東翠に乗り減点八、続いて前に場外失権したこの試合一番の難馬飛翠号に前副将張間君が騎上、第一〇障碍まで飛越第一障碍を一回向けてタイム失権、張間君のフアイトをまざまざと見せてくれた場面。減点七〇・五で斉藤君を二二一点程食つた。これで本学の勝利が決つた様なもので次に農大(名前不明)白秋号に乗り満点の好成績でゴール。最後は前主将遠藤君が東翠号に騎上、マイナス三で工藤君を五点食つてゴールイン。本学は第一試合をものにした。



二回戦第一試合

本 学		日 獣		
選手名	減 点	馬 名	減 点	選手名
岩 崎	6	東 翠	8 5	加 藤
遠 藤	1 6	パイオニア	3 5 5	川 崎
平 中	3	花 房	0	白 井
白 崎	2 2 5 5	昭 南	2 4	和 田
張 間	9 3	稲 将	5 4	軽 部

本学—3 6 5 5 日獣—1 2 2 その差2 4 3 5で本学完敗

朝方一時上つた雨も第一試合終了後またも降り始めグラウンドはまたも水びたし、馬は泥だらけで可哀想な程であった。
試合開始一・三〇本学の前段。
先ず一番岩崎君は先程遠藤君が乗つた東翠号

に騎上、落下二でゴール先ず先ずの出来だつた。二番は日獣の和田君が農大の昭南号に好騎上減点二四でゴールイン。何んだか見ている方ではいやな予感がした。三番は遠藤君で中央の難馬パイオニア号に乗り減点一六で見事ゴールイン。遠藤君の顔には紅がさしていた。四番は日獣の前主将の軽部君、これも早大の難馬稲将号に好騎上で第一障碍まで来てタイム失権、減点五四。次いで本学新主将平中君は東大の名馬花房号に騎上減点三でゴール。続いて日獣はベテラン加藤君の出場東翠号に乗り減点八・五でゴール。次に七番白崎君は昭南号に乗りスタート第一障碍一度拒止してこう着ようやく第一障碍を飛越して第二障碍前又もこう着、そのまゝ前へでず棒立になる事数回、タイム失権、減点二七二・五惜しい失権であつた。八番日獣大川崎君はパイオニア号で出場強引な騎上でマイナス三五・五でゴール。次いで本学張間君は難馬稲将号に乗り第九障碍まで向けタイム失権減点九三、張間君のファイトもあまり通じなかつた様だ。一〇番は白井君が花房号に騎上満点でゴール。本学の敗戦が決定した。敗因は練習不足の由、さもあらん。

11月19日(木) 本学-700 对学习院-649

本 学		学 習 院		
選手名	減 点	馬 名	減 点	選手名
五十嵐	3	白 秋	0	吉 田
岩 崎	0	城 雪	4	今 井
張 間	195	マルタカ	203	安 田
平 中	255	城 冠	255	齊 藤
遠 藤	239	パイオニア	187	東 園
白 崎	0	春 風	0	吉 川

関東九大学馬術争覇戦
(於馬事公苑)

11月20日(金) 本学-925 对農工大-630

本 学		農 工 大		
選手名	減 点	馬 名	減 点	選手名
五十嵐	4	春 風	0	勝 山
張 間	249	桜 月	195	成 田
白 崎	203	パイオニア	202	多 田
平 中	275	姫 桜	8	高 橋
岩 崎	19	栄 専	0	平 野
遠 藤	-175	昭 南	215	吉 田

11月21日(土) 本学-9445 対成城大-740

本 学		成 城 大		
選手名	減 点	馬 名	減 点	選手名
原	285	姫 桜	7	西 野
平 中	123	常 霜	12	吉 成
岩 崎	77	山 桜	-66	出 川
遠 藤	275	桃 棋	225	長
白 崎	227	マルタカ	219	村 上
張 間	214	桜クン	211	内 田

総 評

十一月一九日より三日間馬事公苑で行われた
 関東九大学馬術争覇リーグ戦も幸い好天に恵ま
 れ第一日本学対学習院大学、第二日本学対東京

農工大学、第三日本学対成城学園大学を主に合
 計一六試合が行われたが結局優勝戦は学習院大
 学と成蹊大学との一部校同志で争われ現ナンバ
 ーに進境著るしい学習院大学が優勝を飾った。
 この試合は最後まで予断を許さぬ好試合を転回
 したが最後は本学の青葉号で勝負がついた事は
 当馬術部員にとつては興味深い点であつた。

第一日本学対学習院大学戦は役員交代以来初
 の公式戦でもあり全員フアイトを燃やして戦つ
 たが得点表をみればわかる様に善戦したが惜敗
 この敗戦は前述の様に初の公式戦であるだけに
 後々の試合に相当以上ひびいた様だつた。その
 証拠に第二戦の対農工大戦には全員にフアイト
 が乗らないばかりか、かえつてあせりが見え平
 中新主将のベルの鳴る前にスタートする不手際
 もあり喰い数一で差九二五点で完敗、三日目対
 成城学園大学戦は何と総喰われ観てる方でも情
 けない程であつた。先輩諸氏が怒るのももつと
 もな事である。早計かも知れぬがこれで今度の
 新幹部の理想とする「線の太い運動部員らしい
 人間をつくる」と云う事が果して可能だろうか
 奮起を期待する。